

《履修上の留意事項》《面接授業と遠隔授業の併用実施》

《担当者名》。教授／斎藤 隆史 教授／越智 守生 教授／疋田 一洋 講師／泉川 昌宣 講師／松田 康裕
助教／油井 知雄 助教／竹田 洋輔 助手／佐藤 夏彩 助手／猪熊 孝憲 助手／諏訪 涼子

【概 要】

歯科治療を行ううえで、歯科医師は口腔内の限られたスペースの中で歯を削ったり、手術を行ったりする必要上、様々な器具を使用している。そのため、これまでは教育の過程で実際に臨床で使用する器具を使用し、模型上で歯科治療のトレーニング実習を行ってきた。しかし、最近の入学者を見ると、生活環境の変化で鉛筆を小刀で削るといった手作業で物を作る経験のない人達が増えてきている。そのため、本実習では各臨床系講座が模型実習を開始する前に、歯科治療で使用する主な器具類の構造や取扱い方法を実際に使用させて学び、その後に行われる模型実習での教育効果を上げることを目的としている。

【學習目標】

セムクリップ屈曲して直線に戻す。
 切り出しナイフを適切に使う。
 彫刻刀を適切に使う。
 金属鋏を適切に使う。
 甲丸ヤスリを適切に使う。
 ピーソー氏プライヤーを適切に使う。
 インレーワックスを適切に使う。
 エンジン用ハンドピースを適切に使う。
 エアータービン用ハンドピースを適切に使う。

【學習內容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	歯科用器具の基本的な使用法と実習 1. 刃物の持ち方と実習 a. 切り出しナイフの持ち方と使い方 b. 彫刻刀の持ち方と使い方 c. 実習	● 実習書を使用して実習の目的と、クリップ延ばしを例に挙げて技術の修得について説明 1. 刃物の種類と使用法について説明 a. 切り出しナイフの持ち方と使用法について説明 b. エバンス彫刻刀の持ち方と使用法について説明 c. 切り出しナイフとエバンス彫刻刀を用い、15mm角の石膏棒を材料として、一辺が15mmの正三角錐と、一辺が15mmの簀子（ダイス）を作製する。	越智 守生 斎藤 隆史 疋田 一洋 泉川 昌宣 松田 康裕 油井 知雄 竹田 洋輔 佐藤 夏彩 猪熊 孝憲 諏訪 涼子
2	2. 鋏の持ち方と実習 a. 金冠鋏の持ち方と使い方 b. 実習 3. ヤスリの持ち方と実習 a. 甲丸ヤスリの持ち方と使い方 b. 実習 4. ブライヤー類の持ち方と実習 a. ピーソー氏ブライヤーの持ち方と使い方 b. 実習	2. 鋏の使用法について説明 a. 金冠鋏の持ち方と使用法について説明 b. 金冠鋏を用いて厚さ0.1mmの銅板を約1mm幅で切る等 3. ヤスリの使用法について説明 a. 甲丸ヤスリの持ち方と使用法について説明 b. 甲丸ヤスリを用いて厚さ0.3mmの銅板の両端を斜め（約45°）に削る。 4. ブライヤー類の使用法について説明。 a. ピーソー氏ブライヤーの持ち方と使用法について説明 b. ピーソー氏ブライヤーを用いて、前の実習で両端を斜めに削除した銅板を丸めて円筒形にし、削除した面同士を密着させる。	越智 守生 斎藤 隆史 疋田 一洋 泉川 昌宣 松田 康裕 油井 知雄 竹田 洋輔 佐藤 夏彩 猪熊 孝憲 諏訪 涼子
3	5. ワックスの取扱いと実習 a. インレーワックスの盛り上げ	5. ワックスの取扱いと用具について説明 a. 印刷された4種類の大きさの円の範囲内にP.K.T	越智 守生 斎藤 隆史

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
	実習 b. インレーワックスを軟化して形造る実習 6. エンジン用ハンドピースの持ち方と実習 a. ハンドピースの持ち方と支点の位置 b. 実習 7. エアーターピンハンドピースの持ち方と実習 a. ハンドピースの持ち方と支点の位置 b. 実習	インストルメントを用いてインレーワックスを半球状に盛り上げる。 b. インレーワックスを火炎で軟化し、手指を用いて直径約2mm、長さ約20mmの棒状にし、直径2mmの穴を通過させる。 6. エンジン用ハンドピースの使用法について説明 a. エンジン用ハンドピースの持ち方と支点の位置について説明 b. エンジン用ハンドピースにスチールパーを付け、アクリル樹脂の棒を切削する。 7. エアーターピン用ハンドピースの使用法について説明。 a. エアーターピン用ハンドピースの持ち方と支点の位置について説明 b. エアーターピン用ハンドピースにダイヤモンドポイントを付け、歯列模型上で人工歯に咬合面窩洞を形成する。	疋田 一洋 泉川 昌宣 松田 康裕 油井 知雄 竹田 洋輔 佐藤 夏彩 猪熊 孝憲 諏訪 涼子
4	8. 評価 a. 実習試験	8. 実習についての評価を行う。 a. 歯科用器具の取扱いの修得度について、種々な器具を使用させて評価を行う。	越智 守生 斎藤 隆史 疋田 一洋 泉川 昌宣 松田 康裕 油井 知雄 竹田 洋輔 佐藤 夏彩 猪熊 孝憲 諏訪 涼子

【評価方法】

作製物（100％）

- ・この実習の目的は、歯科用器具の正しい持ち方と、使用方法を教授することであり、実習中に作製する作品の出来映えは評価の対象外である。
- ・作製物の提出状況によって評価する。

【備 考】

教科書：実習書〔歯科用器具取扱法〕内山 洋一 編

【学習の準備】

当該実習内容について実習書をよく読んでおくこと。（20分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得している（専門的実践能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につけている（自己研鑽力）。

【実務経験】

越智守生（歯科医師）、斎藤隆史（歯科医師）、疋田一洋（歯科医師）、泉川昌宣（歯科医師）、松田康裕（歯科医師）、油井知雄（歯科医師）、竹田洋輔（歯科医師）、佐藤夏彩（歯科医師）、猪熊孝憲（歯科医師）、諏訪涼子（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師免許の有するインストラクターが実務経験を活かし、適切な歯科用器具の取り扱いを実演することで教育成果が期待できる内容となっている。